

## 大 会 宣 言

我が国の労働災害は、関係者のたゆまぬ努力により長期的には減少しているものの、今なお年間五十五万人もの労働者が被災し、千七百人近くの尊い命が失われている。特に今年に入り、死亡災害は増加の兆しがみられ、とりわけ産業界への信頼をゆるがすような大規模な爆発・火災災害が続発するなど、極めて憂慮すべき状況にある。さらに、石綿、ダイオキシン、ホルムアルデヒドなどの化学物質による健康への影響にも社会的な関心が集まっているほか、健康診断における有所見者の割合が増加し、また、職業生活において強い不安やストレスを感じている者の割合も六割を超えるなど、楽観を許さない状況にある。

企業経営を取り巻く環境は依然として厳しく、経営の合理化なども進められているが、いかなる状況にあっても働く者の安全と健康の確保は、最優先されるべきものであるという、労働災害防止の原点に立ち返り、「安全なくして生産なし」という考え方の下、経営トップ自らが率先垂範し、全員参加で、安全管理の総点検を実施し、それを踏まえた労働災害防止対策を徹底するなど、真に安全で健康に働ける職場の実現に向けて最大限の努力をしなければならぬ。さらに、労働安全衛生マネジメントシステムの導入・運用に努め、企業の自主的な安全衛生活動を強化するとともに、ゼロ災害全員参加運動、化学物質管理対策、過重労働による健康障害防止対策、健康の保持増進対策、メンタルヘルス対策、安全衛生教育などを充実させることにより、職場の安全衛生水準の更なる向上を図る必要がある。

本年度は、第十次労働災害防止計画の初年度であり、本大会を契機に、心を新たにし、「安全」「健康」「快適」な、明るい職場づくりに向けて、全員の英知と力を結集し、全力を挙げて邁進することをここに誓う。

右宣言する。

平成十五年十月二十九日

第六十二回全国産業安全衛生大会